

室 蘭 民 報

# フィリピンの貧困問題説明

## 室蘭で「高校生養成事業」報告会



公益社団法人北海道国際交流・協力総合センター(佐藤俊夫会長)主催の「高校生・アジアの架け橋養成事業」報告会が15日、室蘭・海星学院高校で開かれ、生徒たちがフィリピンの貧困の現状を説明した。

同事業は発展途上国の現状を学び、自ら解決策を考

えて行動できる人材を育成する目的で実施。道内から高校生10人が選ばれ、7月31日～8月7日にフィリピンのマニラとセブを訪問。児童養護施設やゴミ山、特別支援学校などを見学した。報告会は参加者が所属する高校6校で開催している。この日は同校の大須賀

フィリピンの貧困問題などを説明した「高校生・アジアの架け橋養成事業」報告会

舞さん(1年)はじめ、札幌や旭川、帯広から5人が参加した。

生徒たちはマニラにあるゴミ山で生活する人々の様子を報告。「フィリピンでは法律でゴミを燃やすことが禁止されているため、たぐさんのゴミ山がある。ゴミを集めて生計を立てる人も少なくない」と述べた。台風による大雨でゴミ山が崩れて約500人の死者が出た2000年(平成12年)の事故についても説明した。

最後に5人は「フィリピンに少しでも関心を持ってくれたらうれしいです」と聴講した同校の全校生徒237人に呼び掛けていた。

(池田勇人)